

平成15年度 病害虫発生予報 第3号

平成15年5月30日
発表：福島県病害虫防除所

主要病害虫の発生状況と発生予想（ 多 やや多 並 やや少 ・少 - 対象外）

作物名	病害虫名	発生状況 (平年比)				予想発生量 (平年比)	備考
		県北	県南	会津	浜		
水稻	いもち病 (葉いもち) イネハモグリバエ イネミズゾウムシ イネコオムシ ニカメイチュウ	-	-	-	-		ニカメイチュウ 県南、会津および浜通り地方は 平年同様に少ない。
リンゴ	斑点落葉病 黒星病 腐らん病 キンモンホソガ ギンモンハモグリガ		-	-	-	-	
モモ	灰星病 せん孔細菌病 モモハモグリガ	-	-	-	-	-	
ナシ	黒星病 黒斑病	-	-	-	-	-	
オウトウ	灰星病	-	-	-	-	-	
果樹共通	アブラムシ類 ナシメシクイ カメムシ類 ハダニ類						
トマト (夏秋)	葉かび病 灰かび病 アブラムシ類 ハモグリバエ類	-	-	-	-	-	
キュウリ (冬春)	うどんこ病 ハダニ類 コジラミ類 アザミカ類		-	-	-	-	過去4年と比較
キク	白さび病 ハモグリバエ類 アブラムシ類 ハダニ類						過去4年と比較
リンドウ	葉枯病	-	-	-	-	-	過去2年と比較

予報の根拠の中で(+)は多発要因、(-)は少発要因、(±)は並発生要因であることを示す。

発生予報と防除対策
A 普通作物

イネいもち病 (葉いもち)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 時 期	並			
	発 生 量	並			

1 予報の根拠

育苗箱で苗いもちの発生は確認されていない(±)。

天候予報(5月23日発表の1か月予報)によると、向こう1か月の気温、降水量および日照時間は平年並と予想されている(±)。

2 防除上注意すべき事項

補植用置苗は、早期から発病して本田での伝染源になりやすいので、放置せず直ちに処分する。

補植用置苗で葉いもちの発生、本田で葉いもちの発生が確認された場合は、直ちに薬剤防除を行う(県防除基準p.41参照)。

葉いもちの防除に水面施用剤を使用する場合は、平坦部は6月20日まで、山間部は6月25日までに施用する(薬剤により使用時期が異なるので、使用時期については県病害虫防除基準p.41参照)。

イネヒメハモグリバエ	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	やや多			

1 予報の根拠

5月4～5半旬の巡回調査では、産卵量がやや多い(+)。

天候予報によると、向こう1か月の気温は平年並と予想されている(±)。

2 防除上注意すべき事項

深水管理は本種の発生を助長するので、活着後は浅水管理を行う。

晚植地帯及び直播栽培等では、特に発生動向に注意し、防除を徹底する(県防除基準p.45、福島県病害虫防除情報ファクスサービス「ファピィ」情報番号24番参照)。

イネミズゾウムシ	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 時 期	やや早			
	発 生 量	並			

1 予報の根拠

予察灯で平年より早く発生が確認された。

5月4～5半旬の巡回調査では、食害の状況は平年並であった(±)。

2 防除上注意すべき事項

育苗箱施薬を実施していない水田や直播栽培ほ場で、要防除水準(100株に40頭以上の成虫が寄生しているか、ほぼ全葉に食害痕が見られる)に達した場合は、薬剤散布を行う(県防除基準p.45、「ファピィ」情報番号24番参照)。

合成ピレスロイド系殺虫剤を水面施用する場合は、桑に飛散しないように十分注意する。

イネドロオイムシ	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 時 期	やや早			
	発 生 量	やや多			

1 予報の根拠

予察灯で5月2半旬、巡回調査では5月3半旬に飛来が確認された。

天候予報によると、向こう1か月の気温は平年並と予想されている(±)。

昨年の発生量は平年より多かったので、越冬成虫密度は平年より多いと考えられる(+)。

2 防除上注意すべき事項

例年発生が多い山沿い地域や育苗箱施薬を実施していない水田および直播栽培ほ場で要防除水準(株に10頭以上の幼虫が寄生している)に達した場合は、薬剤散布を行う(県防除基準p.46)。

合成ピレスロイド系殺虫剤を水面施用する場合は、桑に飛散しないように十分注意する。

ニカメイチュウ	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 時 期	並			
	発 生 量	並		並 (平年少発)	

1 予報の根拠

例年発生が見られる県北地方のフェロモントラップでの初誘殺時期、誘殺数は平年並であった(±)。

2 防除上注意すべき事項

6月に入ってから、葉鞘変色茎の発生初期に薬剤散布を実施する(県防除基準p.46)。

その他病害虫の発生動向と防除対策

赤かび病(ムギ類)

赤かび病の発生した麦は有毒(デオキシニバレノール)であるので、飼料であっても用いない。

収穫に当たっては事前に赤かび病の発生状況を把握し、被害が認められる場合は健全なほ場の麦と仕分けして、収穫・乾燥をする。刈り取り後は雨にあてないように注意する。赤かび病の被害粒が確認された場合は仕分けを行い別に乾燥する。共同乾燥施設においては、荷受け時にチェックを行う。

B 果 樹

発生予報と防除対策

斑点落葉病(リンゴ)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量		並		-

1 予報の根拠

県北および県南地方では発生を確認できず(-)、会津地方では発病ほ場割合は平年並であった(±)。

向こう1ヶ月の天候予報では、6月は気温と降水量は平年並であるが、一時天気がぐずつく時期があると予想される(±)。

2 防除上注意すべき事項

本病は高温多湿条件で発生が助長されるので、今後、県防除基準にしたがい、散布ムラがないよう、また防除間隔が10日以上あかないように的確に防除する。

黒星病(リンゴ)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量		並		-

1 予報の根拠

県内各地方での発生は平年並に発病が少なかった(±)。

越冬伝染源が極めて少なく、第一次伝染も認められなかった。

向こう1ヶ月の天候予報では気温、降水量とも平年並の見込みであり、第二次伝染(本病は冷涼で降雨が多いと二次伝染が助長される)も多くならないと推定される(±)。

2 防除上注意すべき事項

今後の重点防除時期は6月上旬であり、発病が確認された園地では、県防除基準にしたがい薬剤を散布する。

腐らん病(リンゴ)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	やや多		多	-

1 予報の根拠

県北地方では枝腐らんが、県南・会津地方では胴腐らんの多発が確認された。

昨年に比べ県南地方では発病程度が上昇しており、会津では発病の程度が高く、各地方とも発生量は年々増加している(+)。

2 防除上注意すべき事項

堆きゅう肥を連用すると樹体の抵抗力が高まり、発病を抑制する。

早期摘果は果梗が脱落しやすくなるので、枝腐らん病の感染防止に有効である。

詳しくはファピー31番または病害虫防除所ホームページを参照のこと。

キンモンホソガ(リンゴ)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 時 期	やや早			-
	発 生 量	並			-

1 予報の根拠

発生量は年々減少傾向にある(-)。

県北地方の一部では平年よりやや多かった(+)。

フェロモントラップにおける各地の誘殺数は平年並で少なかった(±)。

向こう1ヶ月の天候予報では、気温は平年並の予想である(±)。

2 防除上注意すべき事項

発生時期はやや早まる見込みなので防除適期を逃さないように注意する。

県北地方での防除適期は 6月 2半旬～3半旬と予測される。

徒長枝や二次伸長した新梢の幼葉に多く寄生するので、樹勢を見ながら徒長枝の整理を行う。

キンモンハモグリガ(リンゴ)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 時 期	やや早			-
	発 生 量	やや少	並		

1 予報の根拠

県北地方での新梢被害の発生は未確認(-)、県南地方は平年並(±)、会津地方はやや少ない発生であった(-)。

向こう1ヶ月の天候予報では、気温は平年並の予想である(±)。

2 防除上注意すべき事項

多肥や強せん定を避け徒長枝の発生を少なくする。

部分的に枝が混んでいる場合には、夏期せん定等により薬剤の通りを良好にし、高所の徒長枝にも薬剤がかかるよう十分に散布する。

灰星病(モモ)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	並	-		

1 予報の根拠

発病花率は平年並であった(±)。

発病ほ場割合は平年並であった(±)。

2 防除上注意すべき事項

予備摘果の際に花腐れと枝病斑の処理を適切に行い、病原菌密度を低く維持する。

せん孔細菌病(モモ)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	やや少	-		

1 予報の根拠

春型枝病斑の発生は少なかった(-)。

向こう1ヶ月の天候予報では、降水量は平年並の予想である(±)。

2 防除上注意すべき事項

枝病斑は見つけしだいせん除し、園外に持ち出すこと。

モモハモグリガ (第一世代羽化盛期)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 時 期	-	-		
	発 生 量	少	-		

1 予報の根拠

県北地方での発生は未確認である(-)。

2 防除上の注意すべき事項

県北地方における防除適期は、6月 2半旬～3半旬と予測される。

ナシ黒星病	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	やや多	やや多	-	やや多

1 予報の根拠

果叢基部での発生は、県北、県南地方ではやや多く（+）、一方浜通り地方では平年よりやや低かった（-）。

向こう1ヶ月の天候予報によると、気温は平年並であるが後半ぐずつく時期がある見込みである（+）。

2 防除上注意すべき事項

低温、降雨により発生が助長されるので、梅雨期間に低温、降雨が予想される場合は、県防除基準により散布間隔が10日以上あかないよう薬剤防除を行う。

果叢基部、葉、果実、新梢など発病した部位は摘除し、土中に埋める。

ナシ黒斑病（二十世紀）	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	並	-	-	-

1 予報の根拠

新梢葉における発病が確認された（+）。

幼果の発病は全調査園で確認したが、発生率は低かった（-）。

本年5月に黒斑病菌の感染に適した気象条件（日平均気温が18℃以上連続し感染に好適な降雨があった）が出現した（+）。

2 防除上注意すべき事項

小袋かけは薬剤散布後なるべく早く行う。

梅雨期に高温・多雨条件が続くと急激に発病するので、県防除基準にしたがい、散布間隔が10日以上あかないよう薬剤防除を行う。

詳しくはファピー33番を参照する。

オウトウ灰星病	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	やや少	-	-	-

1 予報の根拠

花腐れの発生は少なかった（-）。

落花後も降雨日が少なかったため、分生子の形成、飛散が少なく果実感染も抑制された（-）。

向こう1ヶ月の天候予報では、気温、降水量とも平年並である（±）。

2 防除上注意すべき事項

成熟期に降雨日が多い場合は、県防除基準にしたがって散布を徹底する。

ア布拉ムシ類 (リンゴ、桃、ナシ)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 時 期		やや早い		
	発 生 量	やや少		並	やや少

1 予報の根拠

リンゴでは各地方で確認され、会津地方の寄生新梢率は例年並であった（+）。

ナシでは県南、浜通りで例年より少なく、県北地方では確認できなかった（-）。

モモでは県北で発生が確認出来なかった（-）。

2 防除上注意すべき事項

アブラムシの発生が多い場合には、リンゴ、ナシでは6月中旬頃に、ネオニコチノイド系殺虫剤を、モモではピリジアンアゾメチエン系殺虫剤を加用する。

ナシヒメシンクイ (リンゴ、桃、ナシ)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 時 期		やや早		
	発 生 量	やや少		やや多	

1 予報の根拠

モモの芯折れ被害は確認されなかった（-）。

フェロモントラップにおける5月前半の誘殺消長によれば、浜通りでの誘殺数は平年より高く推移しているが（+）、他の地方では低く推移している（-）。

2 防除上の注意すべき事項

被害新梢（芯折れ）を見つけたら速やかに取り除く。

カメムシ類 (モモ、ナシ)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 時 期	やや早い			
	発 生 量	やや少	並	やや少	並

1 予報の根拠

カメムシ類のサクラへの寄生状況では、クサギカメムシは各地方で確認できたが、寄生頭数は少なかった。また、チャバネアオカメムシは浜通りでは確認できたが他地方では確認出来なかつた(-)。モモ、ナシにおける果実吸汁痕は確認できなかつた(-)。

予察灯におけるカメムシ類の誘殺数は各地方とも少なかつた(-)。

県南地方(調査地点:塙町)および浜通り地方(調査地点:いわき市)における本年のスギ花粉の飛散量から推定したエサとなる杉毬果量を検討した結果、例年より少ないとの予測から、カメムシ類が果樹園へ飛来する可能性が高い見込みである(+)。

2 防除上注意すべき事項

カメムシ類の発生量がやや少ない見込みの地方でも、山沿いなどの園地では発生が多くなる場合があるので、ほ場をよく観察し、防除基準にしたがい適切に防除する。

ハダニ類 (リンゴ、ナシ)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 時 期	やや早い			
	発 生 量	並			

1 予報の根拠

リンゴの新梢葉にリンゴハダニの寄生が認められ、県南地方では一葉当たりの寄生頭数が平年より多かった(+)。また、発生ほ場率は各地方とも平年よりやや高かった(+)。

ナミハダニは県南地方のナシに寄生が認められたが、他の地方では確認できなかつた(-)。

向こう1か月の天候予報によれば気温、降水量とも平年並である(±)。

2 防除上注意すべき事項

密度が急増する時期(6月下旬 ~ 7月上旬)に密度が要防除水準(寄生葉率30%、または雌虫1頭/葉)に達したら各樹種とも防除基準にしたがい殺ダニ剤を散布する。なお、園地条件等により発生が異なるので、自ら観察をしてから防除する。

薬剤の散布ムラは再発を早めるので、散布ムラがないよう、また、枝葉が過繁茂にならないよう枝葉の整理をする。

その他の病害虫の発生動向と防除対策

ハマキムシ類(リンゴ、モモ、ナシ)

越冬世代幼虫による被害花叢率は各地方ともやや低かったが、県南地方の一部で発生の多い園が認められた。なお、5月下旬でもまだ幼虫が散見されるのでファピー36番を参照し防除する。

C 野 菜

うどんこ病(冬春キュウリ)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	やや多	-	やや多	

1 予報の根拠

5月上旬の巡回調査では、例年と比較して、発生ほ場率がやや高く(+)、一部多発しているほ場も認められた。

2 防除上注意すべき事項

薬剤散布にあたっては、薬剤耐性菌の出現を防止するため、同一系統の薬剤を連用しないように注意する。

防除対策は、「ファピイ」情報番号50番を参照する。

D 花 き

ハモグリバエ類(キク)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	並			

1 予報の根拠

5月下旬の巡回調査では、全てのほ場で寄生が認められた。発生の多いほ場が散見されたが、発生量は例年並であった(±)。

2 防除上注意すべき事項

薬剤散布にあたっては、抵抗性系統の出現を防止するため、同一系統の薬剤を連用しないように注意する。

防除対策は、「ファピイ」情報番号61番を参照する。

葉枯病(リンドウ)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	-	やや多	-	-

1 予報の根拠

5月下旬の巡回調査によると、一部のほ場で発病茎率が高かく(+)、発生量は平年よりやや多かった(+)。

2 防除上注意すべき事項

薬剤散布にあたっては、薬剤耐性菌の出現を防止するため、同一系統の薬剤を連用しないように注意する。

防除対策については、「ファピイ」情報番号62号を参照する。

その他病害虫の発生動向と防除対策

ハダニ類(夏秋トマト)

県南、会津の一部のほ場で寄生が認められた。トマトで寄生が見られることはほとんどないが、発生が見られる場合には防除を行う。

防除対策については、「ファピイ」情報番号42号を参照する。なお、農薬取締法改正に伴い、トマトとミニトマトが区分された。ミニトマトは、直径3cm以下のものを指す。

天候予報

向こう1ヶ月(平成15年5月23日仙台管区気象台発表)の気温は平年並、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込みです。

お 知 ら せ

昨年、無登録農薬が全国的に流通し、使用されている実態が明らかとなり、国民の「食」に対する信頼を損なう大きな問題となりました。

このため、昨年12月に農薬取締法が改正され、3月10日からこの改正法が施行されます。主な改正点は、無登録農薬の製造、輸入、使用の禁止(販売は従来から禁止)、農薬使用基準に違反する農薬使用の禁止、罰則の強化などであり、農薬を製造・輸入・販売・使用するすべての国民に関係する内容です。

農家だけでなく、家庭菜園や花壇や芝の手入れをする方であっても、農林水産省の登録番号のある安全性の確認された農薬を、ラベルをよく読んで使うことが必要です。

無登録農薬はみんなで排除しましょう。

詳しい農薬情報は、農林水産省ホームページ(<http://www.maff.go.jp/nouyaku/>)の「農薬コナ」をご覧下さい。

病害虫防除情報ファクスサービス「ファッピイ」

情報分類	情報発表日	情報番号	情報提供機関
総合案内	2003年5月30日	0-0305-03	福島県病害虫防除所
情報タイトル	枚数	作物名	
病害虫防除情報ファクスサービス「ファッピイ」の総合案内	1	共通	

情報の種類と情報番号

情報の種類	番号	発表日	情報の内容	枚数
総合案内	0	5月30日	情報の種類、内容、発表日を示す	1
発生予察情報				
定期予報	10	5月30日	(本県で発表した最新の発生予察情報など) 平成15年度発生予報第3号	8
防除情報				
水 稲	20	4月 7日	(病害虫の具体的な発生データや防除対策など) 田植までの病害虫防除対策(育苗箱施薬剤)	2
"	21	3月 3日	水稻の育苗期病害防除対策について	4
"	24	5月 6日	水稻初期害虫防除対策	3
ムギ類	23	4月 9日	ムギ類の赤かび病対策	1
大 豆	25	5月12日	大豆(は種時・は種前)の病害虫対策	1
果 樹	30	5月30日	果樹病害虫総合(5/30発表の情報をまとめてあります)	2
"	33	5月30日	ナシ黒斑病の発生状況と防除対策	1
"	35	3月13日	クサギカメムシの越冬状況	2
"	36	5月30日	リンゴモンハマキの発生予測と防除対策	1
野 菜	42	5月29日	夏秋トマトにおける病害虫の発生状況と防除対策	1
"	43	4月11日	イチゴにおける病害虫の発生状況と防除対策	3
"	50	5月29日	冬春キュウリ(施設)の病害虫の発生状況と防除対策	2
花 き	61	6月 2日	キクの病害虫の発生状況と防除対策	1
"	62	6月 2日	リンドウの病害虫の発生状況と防除対策	1
その他の	66	3月27日	牧草におけるムギダニの発生状況と防除対策	1
"	600	7月12日	ミカンキイロアザミウマの発生状況と防除対策	1
"	63	4月28日	キュウリホモブシス根腐病の発生状況と防除対策	1
農 薬	71	1月17日	平成14年11~12月に登録が失効した農薬	3
"	72	3月14日	農薬取締法の改正について	1
"	73	3月14日	農薬取締法第11条について	1
"	74	3月14日	農薬取締法第12条について	3
"	75	6月14日	P C Pを含む農薬の回収について	1
"	76	6月14日	P C N Bを含む農薬の回収について	1
気象情報	90	金曜夕方	金曜発表の1ヶ月予報、金曜発表の週間予報	2

は最新の情報であることを、 はこれまでに発表した情報であることを示しています

F A X の操作方法

お手元のFAXから「024(923)2010」に電話する。

【ダイヤル回線の場合のみ】「トーン(*)」または「P B」ボタンを1回押す(入力信号をブッシュ信号に切り替える。ただし機種によって切り替えボタンが異なりますので、FAXの取り扱い説明書を参照ください)。

音声案内に従い^{注1)}、取り出したい情報番号^{注2)}に続けて、「シャープ(#)」を押す。

「ピー」の音がしてから、通信ボタン(「受信」や「スタート」ボタンなど)を押す。
受話器を置く。

注1) 音声案内中でも、情報番号の入力はできます。

注2) 情報番号がわからない場合でも、FAXの通信ボタンを押すだけで、総合案内の情報を取り出せます。

お知らせ

昨年、無登録農薬が全国的に流通し、使用されている実態が明らかとなり、国民の「食」に対する信頼を損なう大きな問題となりました。

このため、昨年12月に農薬取締法が改正され、3月10日からこの改正法が施行されました。主な改正点は、無登録農薬の製造、輸入、使用的禁止(販売は従来から禁止)、農薬使用基準に違反する農薬使用の禁止、罰則の強化などであり、農薬を製造・輸入・販売・使用するすべての国民に関係する内容です。

農薬は農林水産省の登録番号のあるものを、ラベルをよく読んで使いましょう。詳しい農薬情報は、農林水産省ホーミページ(<http://www.maff.go.jp/nouyaku/>)の「農薬コナ」をご覧下さい。

情報内容への質問や要望は病害虫防除所までご連絡ください。

TEL : 024-938-4242 FAX : 024-923-2012 e-mail : kfsm0301@sp.jppn.ne.jp

病害虫防除情報は、ファクスサービス(FAX : 024-923-2010)で取り出せます。また病害虫防除所ホームページ(アドレス <http://www.aff.pref.fukushima.jp/fappi/index.html>)でも見ることができます。